

澤田 辰徳 (著)

覗いてみたい!? 先輩 OT の頭の中 ～臨床のリアルに触れる～

友 利 幸之介
(東京工科大学, 作業療法士)



臨床のモヤモヤ解消につながる一冊。ただしそのポイントとは……

若手の方から、「読んでおいたほうがよい本ってありますか?」と質問されることがあり、これまでの20年間は、日本作業療法業界のレジェンドである故鎌倉知子先生の『作業療法の世界』(三輪書店)を推薦してきた。しかしこれからは本書を推薦したい、というか、『先輩 OT の頭の中』→『作業療法の世界』と順番に読んだほうが、作業療法の本質をスムーズに捉えることができるのかもしれない。いずれにせよ、あの名著に肩を並べるほどの秀作がついに出了な、というのが私が本書を読み終えたあとの感想である。

作業療法という職業は、悩み続けることを宿命づけられた専門職である。私も右も左もわからなかった新人のころ、15年以上も経験がある上司が「患者さんのことで悩みすぎて夢に出てきた」と言っていたときに覚悟した。この悩みは一生続くのだと。本書は、そんな作業療法にまつわる多くのモヤモヤ、これを解消するきっかけになってくれる。

さっと内容を見てもらえたら、猛烈に共感を覚えるだろう。一理学療法士は頭がいいなあって

- 引け目を感じちゃう (9 ページ)
- ―初めての学会参加 (18 ページ)
- ―認定資格を取るべきか? (30 ページ)
- ―作業療法士不振のクライアントへの寄り添い方 (47 ページ)
- ―実習生が主体的に動き、作業療法を好きになるには? (82 ページ)
- ―管理者として職員を叱るべきかどうか (101 ページ)
- ―事務から単位数を上げてくれと言われるのだけど…… (110 ページ)

等々、作業療法士であれば誰もが一度は経験するモヤモヤ場面が多数取り上げられており、そのモヤモヤ場面の一つひとつに、著者がとった行動とその行動指針が解説されている。もちろん著者の行動や行動指針がすべて「正解」ではない。ただ「基本」ではあると思う。よって初学者は、思い切って著者の行動や行動指針をマネするのがいいと思う。そしてその行動が身についてきたら、自分なりの正解を模索していくのがいいだろう。著者は本書を経験談と謙遜しているが、作業療法は実学の性格が強く、経験を通して学ぶものであるし、また著者の経験もしつかりとした作業療法の理論や研究に裏付けられていることがわかる。

おそらく最もよくないのは、何かと理由をつけて何も行動しないことである。ただ本書を読むだけでは何も行動していないのと同じであり、モヤモヤ解消にはつながらない。本書を読み、ぜひとも臨床現場での行動につなげてほしい。もし私が臨床にいたとするなら、今日のモヤモヤ場面をノートに書き出し、自分がとった行動と本書とを見比べながら、自分なりの考えと明日とるべき行動をノートに書き出す、そんな使い方をするかもしれない。

最後になるが、本書の「おわりに」で、経験が上だから常に優れているわけではない、本当の意味で変わらなければいけないのは「先輩 OT」の書籍を手にする若者ではなく、私たち先輩のほうかもしれない。「共学共進」で作業療法の未来を作り上げよう、と締めくくられている。私も付き合いが長い、何かあっても人のせいにならずに自らが率先して動いて問題解決していくのが著者である。そんな素敵先輩の頭の中を覗ける良書。お薦めです!

B5 判 154 頁 2,800 円+税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357